

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ



首都サンサルバドルの街並

世界の国々や文化を紹介する「ワールズ・ウィンドウ」！ 案内役は、国際交流員キャサリン・タットネルさんとアレックス・ロザウスキさんです。

Vol.88

エルサルバドル共和国

皆さんこんにちはアレックスです。皆さんはエルサルバドルという国を知っていますか？ぼくの国（アメリカ合衆国）の下に位置する赤道近くに、小さいけどとっても素敵な国があります。アメリカの人たちの間ではとても人気が高い国で、毎年たくさんの観光客が訪れています。今回は皆さんにそのエルサルバドルをご紹介します。

中央アメリカに位置する**エルサルバドル共和国**は、アメリカ大陸の中で面積が一番小さく、人口密度が一番高い国です。東側は太平洋とグアテマラ、北側はホンジュラスに接しています。エルサルバドルには自国の通貨がありません。1892年から2001年までコロンという通貨を使っていましたが、その後、通貨はアメリカドルに変わりました。

中央アメリカは、火山活動が非常に活発な所です。エルサルバドルの国土面積はたった2万1000㎡（青森県の約2倍）ですが、火山の噴火口が25か所もあります。2001年には2回の連続した大きな地震で、死者1149人、倒壊家屋15万棟という大災害がありました。

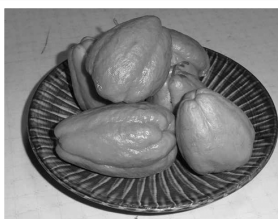
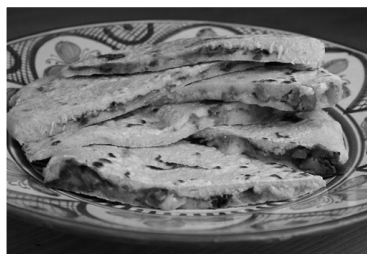
中央アメリカの人類文明の歴史はピピル先住民から始まるとされています。このピピル先住民は今のエルサルバドル地域をクズカトランと呼んでいました。ピピル語でクズカトランとは「貴重なダイヤモンドや宝石の場所」を意味しています。 ・ピピル遺跡



エルサルバドルの人口は約600万人、大部分の人種は混血で、メスティソと呼ばれています。首都サンサルバドルの人口は約570万人で、エルサルバドルの9割の人々が暮らす大きな都市です。1500年代にはスペイン人が侵略し、天然痘を持ち込みました。天然痘の流行で、エルサルバドルの人口の80パーセントが亡くなりました。そしてスペイン人が南アメリカを征服し植民地になりました。その後、数世紀の間スペインの支配下でした。

1811年には独立運動がありました。1832年には独立することが出来ました。その頃、エルサルバドルの主要作物はインディゴ染料でした。このインディゴは、本来のデニムジーンズの色です。しかし、1800年代末期、人工染料が発見されてから天然染料の人氣が衰え始め、エルサルバドルの畑では、コーヒー豆の栽培が始まりました。1900年代初期には、エルサルバドルのコーヒー豆輸出による収益は、国民所得の95パーセントを占めるようになりました。現在もコーヒー豆の栽培は盛んで、2010年には2万700 tものコーヒー豆が栽培されています。

一般的なエルサルバドルの食事は、たくさんの穀類や豆類、海鮮料理などです。エルサルバドルの代表的な料理「ブブサ」は、トウモロコシの粉で作られた丸くて細いお好み焼きのようなもので、中にはチーズや細切りにした豚肉が入っています。エルサルバドルの人々はスープが大好きです。海が近いので海鮮スープが人気です。一日中釣りをして釣れたものすべてを鍋に入れて煮込みます。もうひとつ人気のあるスープは「ソパ・デ・パタ」と言います。これは、牛の足やトライブ（牛の胃）、トウモロコシ、バナナ、グリーンビーンズ、トマト、キャベツ、中央アメリカ特有の野菜であるキャッサバとハヤトウリを具材として作られます。



○代表的な現地フーズ

- ・左/トウモロコシの粉の生地で作るブブサ
- ・右上/タピオカの原料として知られるキャッサバ（イモ）
- ・左下/クセがなく淡白な味のハヤトウリ

観光では、エルサルバドルの自然は素晴らしく熱帯雨林がきれいで海も有名です。中央アメリカでのサーフィンは最高だと言われています。また、いたるところにマヤとピピル先住民の遺跡もあります。エルサルバドルの天気と民族は温かくて優しいといわれています。もし、機会があったら、ぜひ、南国のパラダイス「エルサルバドル」に行ってみてください！

・熱帯の砂浜が続く海岸

